

令和4年度

第7回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和4年7月6日(水)  
開会9時35分 閉会10時07分

場 所 教育委員室

令和4年度  
第7回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 報 告

- ① 新時代の学びを支えるICT活用推進に関する取組について
  
- ② 大分県STEAM教育（次世代人材育成）推進事業について

(2) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	岡 本 天津男
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	理事兼教育次長	渡 辺 登
	教育次長	三 浦 一 雄
	教育次長	内 海 真理子
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育デジタル改革室長	神 崎 文 隆
	高校教育課長	山 田 誠 司
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	得 丸 祐 輔
	教育改革・企画課 主任	安 長 理 生

### 2 傍聴人

0 名

## 開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、高橋委員が欠席です。

それでは、ただ今から、令和4年度第7回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、鈴木委員にお願いします。

## 会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は9時55分を予定していますので、よろしくお願いします。

## 議 事

### 【報 告】

#### ① 新時代の学びを支えるICT活用推進に関する取組について

(1課1室〔教育改革・企画課、教育デジタル改革室〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「新時代の学びを支えるICT活用推進に関する取組について」教育デジタル改革室長から説明をしてください。

(神崎教育デジタル改革室長)

「新時代の学びを支えるICT活用推進に関する取組について」説明します。

資料1ページをご覧ください。

教育デジタル改革室では、GIGAスクール構想を推進するため、新時代の学びを支えるICT活用推進事業に取り組んでいます。4月21日(木)に開催された第2回教育委員会会議において、ICT教育サポーター育成プラットフォームの構築について報告しました。今回は、ICT活用優良授業チャレンジ、社会

教育施設のW i - F i 環境整備及びプレゼンテーションコンテストの3点について、報告します。

まず、I C T活用優良授業チャレンジについて説明します。

資料2ページをご覧ください。

県内のI C Tを活用した授業の優良事例を公開するI C T活用授業ポータルサイトを開設します。I C T教育サポーターの県立学校への派遣とともに、優良事例を共有することにより、授業改善を図ります。I C T活用授業ポータルサイトは現在構築中ですが、デモ画面が準備できましたので、概要を担当が説明します。

(長谷川指導主事〔教育デジタル改革室〕)

デモ画面をご覧ください。

現在構築中のI C T活用授業ポータルサイトには、I C Tを活用した授業の優良事例と高校教育課が準備した探究的な学びの実践事例を掲載します。またキーワードでの検索、学校種や教科別での検索も行うことができます。

次に、玖珠町立くす星翔中学校の事例を紹介します。タイトルは「電流とそのエネルギー」です。使用機器や教科、授業の内容、I C T活用のポイントなどを見ることができます。本事例では、実験結果をノートに記録後、表計算ソフトに実験結果を入力し、グラフを作成しています。表計算ソフトを活用することにより、短時間で正確なグラフを作成することが可能となりました。また、班ごとに入力した結果をまとめて表示することができるグラフを作成し、クラス全体ですぐに共有することが可能です。本事例は1人1台端末を活用した事例であるとともに、グラフの作成などの部分は、小学校においても応用できる内容となっています。

次に、探究的な学びの実践事例として三重総合高校の実践を紹介します。研究の概要や内容を掲載しています。

構築中のI C T活用授業ポータルサイトの下部には、文部科学省のリンクなども掲載し、全国の事例なども見ることが可能になります。

(神崎教育デジタル改革室長)

今後のスケジュールについては、既存の優良事例を100件程度掲載し、7月19日にI C T活用授業ポータルサイトを公開します。また、新たな授業の事例を学校に公募し、集まった事例の中から選定した新規の優良事例を60件程度、12月に追加公開の予定です。また、新規の優良事例から4件を選定し、取組の解説などを加えた動画を、令和5年3月に公開の予定です。

次に、社会教育施設のW i - F i 環境整備についてです。

資料3ページをご覧ください。

令和3年度第1回総合教育会議において、「家庭や学校以外でも1人1台端末が活用できる環境整備が必要」という意見をいただきましたので、大分県立図書館や香々地青少年の家、九重青少年の家の3施設において、1人1台端末が安全に利用できるW i - F i 環境を整備します。

3施設とも、県立学校の児童生徒だけでなく、市町村立学校や私立学校の児童生徒の1人1台端末においても、県立学校と同等のセキュリティ環境で活用できます。夏休み前の7月19日より供用開始の予定です。

最後に、プレゼンテーションコンテストについて、説明します。

資料4ページをご覧ください。

プレゼンテーションコンテストは、毎年2月に開催しています。令和3年度からは1人1台端末を活用した形式としており、今年度で通算5回目の開催となります。児童生徒の情報活用能力の育成と教員のICT活用指導力の向上を図ることを目的としており、GIGAスクール構想の推進につながる取組となっています。7月7日から11月9日の間に応募を受け付け、予備審査を経て、令和5年2月18日に本選を実施します。本選はオンラインで配信します。令和3年度は、小学校から32チーム、中学校から101チームという過去最高の応募数がありました。また今年度から、教育デジタル改革室が設置しているGIGAヘルプデスクの対象を私立学校にも広げることにより、私立学校との関係も強くなりましたので、より多くの学校や教員、児童生徒にプレゼンテーションコンテストの魅力を伝え、参加する学校数を増やしたいと考えています。

広報用動画を作成しましたので、ご覧ください。

【 広報用動画（1分30秒） 】

教育委員の皆さまには、会場またはオンラインで児童生徒の発表をご覧くださいけると幸いです。

説明は以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

私の子どもが通っている学校では、宿題をオンラインで受け取る仕組みができています。また、宿題の提出状況の確認や、児童生徒から質問ができるなど様々な機能があります。私の子どもも以前と比べると宿題を積極的に取り組んでいるように感じます。忘れ物に関する連絡もあります。先生も子どもも非常に活用していると思います。ICT活用授業ポータルサイトに普段の使用方法を掲載することにより、ICTの導入が進んでいない学校の参考になると思います。

(神崎教育デジタル改革室長)

学校が取り組んでいる好事例を収集し、よりわかりやすい形にしていきます。教育委員の皆さんもご覧いただけるので、感想等をお願いします。

(岩武委員)

現状は、ICTを積極的に活用している先生もいれば、それほど活用していない先生もいます。ICTを積極的に活用していても、子どもの学力などが伸びて

いないことも考えられます。そのなかで、ICTを活用した優良事例は、どのような観点から選定しますか。

教科書にQRコードが掲載されるなどICTが活用しやすくなってきています。教員の4人に1人がICT活用に不安を感じている現状があるので、ICT活用授業ポータルサイトで事例を紹介する際には、例えば初級・中級・上級編と分け、初級編は、一般的に使用されているQRコードなどを使用してできることを紹介しても良いのではないかと思います。積極的に活用している先生の事例のみを紹介よりは、ICT活用に不安を感じている先生が活用できそうな事例も紹介すると良いと思います。

(神崎教育デジタル改革室長)

ICT活用授業ポータルサイトに掲載されている授業の事例を見て、その事例がどのように先生の参考となり、普段の授業につなげていくのかについて、教育デジタル改革室で議論をしています。指導主事は、掲載されている授業の事例を見ると、事例からヒントを得て、そのヒントを普段の授業に活用できると言っております。

(小野参事(総括)[教育デジタル改革室])

ICT活用授業ポータルサイトに掲載する事例は、3つの内容を踏まえ、選定します。1つ目の内容は「このような場面で」です。2つ目の内容は「このようなICT機器の機能を使えば」です。3つ目の内容は「このような学びが期待できる、または、このような学びを促すことができる」です。3つ目の内容は授業の目標にかかわる部分です。

(岩武委員)

ICTを使用した方が、使用しない時よりよくわかるという観点が必要だと思います。グラフの作成については、表計算ソフトを使用しなくても、手書きでもできます。ICTを利用することの利点をわかりやすい事例で紹介した方がよいと思います。

積極的に活用している先生の事例を掲載するのもいいですが、教員の4人に1人がICT活用に不安を感じているので、ICT活用に不安を感じている教員にもわかりやすい事例を掲載してほしいと思います。

(岩崎委員)

ICT活用授業ポータルサイトには授業の概要を掲載するとしていますが、先生と児童生徒の了解を得て、授業をしている際の動画を掲載するのですか。

(神崎教育デジタル改革室長)

授業を実施している際の動画は、教育庁チャンネルに掲載していますので、現時点では、掲載の予定はありません。

(岩崎委員)

掲載を予定しているのは、場面ごとの利用方法別の効果を掲載するということですか。

(神崎教育デジタル改革室長)

各場面の利用方法別の効果を掲載するとともに、掲載した事例から4件程度を選定し、授業をした先生のインタビューの動画を撮影し、授業のねらいや活用方法等も含めた動画を作成する予定です。

(岩崎委員)

I C Tの使用が得意ではない先生には、具体的な事例を掲載した方が効果的だと思いますので、具体的な事例を多く掲載することも検討して下さい。

(林委員)

W e bサービスを利用し、大学で講義をしています、非常に良いです。

W e bサービスは、大学の講義で積極的に使用されているので、中学校段階から使用するのとてもいいと思います。また、大学では出席の確認やレポートの提出及び採点にもW e bサービスが活用されているので、高校の先生も通知表の作成などに使用してはどうかと思います。セキュリティに留意し、使用してほしいと思います。

岩武委員が先ほど発言されていましたが、グラフを作成する際に手書きをすることは大切です。表計算ソフトを使用すると綺麗なグラフが作成できますが、根拠となるデータの保存方法等が適切ではないこともあります。また、I C Tを使用すると、写真の色合い等も加工でき、そのことが研究の不正にもつながります。公正な研究活動をするにあたり、してはいけないことなどを子どもの時から教えるとともに、訓練する必要があると思っています。訓練をせずに大学に入学すると、非常に苦勞するので、小学生の頃から学習することは大切です。写真を撮影した際にA Iが合成している事実を知らないと、現実とは違うということを理解できません。文部科学省が研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを出してしまいますので、そのなかから中学生や高校生に伝えることを研究してはどうですか。

パスワードの管理などが十分ではないと、被害に遭うこともあるので、情報管理など学校の情報リテラシーに十分気をつけてください。

## **② 大分県S T E A M教育（次世代人材育成）推進事業について**

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第2号「大分県STEAM教育（次世代人材育成）推進事業について」、高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

それでは、「大分県STEAM教育（次世代人材育成）推進事業について」説明します。

資料をご覧ください。

この事業によって、SDGs（持続可能な開発目標）に目標とされるような諸問題の発見から解決ができる人材、また先端科学技術分野で幅広く活躍できる人材を育成するため、思考力や想像力を育成するSTEAM教育の推進を図ります。

STEAM教育を推進するにあたり、今年度のテーマとして「宇宙」と「エネルギー」をあげております。

今後のスペースポート開港を前に、大分県では宇宙への機運が高まっており、また「エネルギー」についても、SDGs（持続可能な開発目標）のなかで目標とされるように、脱炭素への取組が求められております。また、「宇宙」及び「エネルギー」というテーマは、分野横断的な学びであるSTEAM教育の教材として非常に適していると考えております。

事業の概要ですが、活動の軸は3つあります。

1つ目は、多くの高校生に参加してもらい、講演会やワークショップを通して、STEAM教育についての理解を深めてもらうイベントです。

2つ目は、50名程度の生徒による、半年間かけておこなう課題研究特別講座です。

3つ目は、教員を対象とした探究的な学び実践講座です。

次に、ガイドブックの4ページをご覧ください。

7月23日（土）に実施される「STEAMフェスタ」については、200名程度の高校生が参加を予定しています。

「STEAMフェスタ」では、講演会やトークセッションだけでなく、ワークショップを実施し、参加した高校生に探究的な学びを体験してもらいます。

ワークショップの内容について、説明します。

ワークショップは、A～Dの4コースを設定しています。

Aコースは、東京理科大学の学生発ベンチャー「宇宙の学び舎seed」が開発したオリジナルプログラムを活用し、実施します。月面ローバーを実際に遠隔操作するプログラムを作成します。

Bコースは、理化学研究所の協力のもと、「Black Hole Recorder（ブラックホール・レコーダー）」をどのように活用できるかについて「アイデアソン」を行います。

Cコースは、最新のVR（仮想現実）を活用し、貧困等の社会課題が生じている現場を体験し、課題の本質を発見するプログラムに参加します。

Dコースは、早稲田大学の講師が、課題解決とビジネスを結びつけ、起業につ

いて考えるワークショップを実施します。

STEAMフェスタのように多くの高校生が参加する行事としては、9月と12月に予定されているオンライン講演会、令和5年1月に予定されているシンポジウムがあります。このシンポジウムは、「大分県STEAM教育（次世代人材育成）推進事業」を総括する行事であり、生徒の活動発表などを行います。

ガイドブックの5ページをご覧ください。

2つ目の軸である生徒の課題研究特別講座は、「大分県内の課題を宇宙／エネルギーからの視点で解決せよ！」をテーマに、県内の企業や大分大学、東京学芸大学、その他専門機関に協力を頂き、生徒が課題の発見から解決までの流れを体験します。成果は1月のシンポジウムで発表するとともに、10月に大分市で開催予定の日本青年会議所の全国大会において、発表予定です。

3つ目の軸である教員を対象とした探究的な学び実践講座については、STEAM教育を学ぶeラーニングの受講や専門家とのディスカッションを通じて得た学びをもとに、チームにわかれて授業を考案し、実践をします。この取組により、普段の教科の授業や「総合的な探究の時間」における探究的な学びの実践に役立てて欲しいと考えます。

様々な取組を通じて、学校の枠を超え、生徒や教員が分野横断的なSTEAM教育の学びを体験することにより、今後のSTEAM教育の推進や科学技術・宇宙への関心・意欲の向上につなげていきます。

説明は以上です。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

先生が楽しく取り組めるプログラムを積極的に進めて欲しいと思います。

「大分県はSTEAM教育を実施していると言っているが、何もやっていない」と言う大学の先生もいるので、実施している内容を積極的に世間に発信してください。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

(岡本教育長)

それでは、これで令和4年度第7回教育委員会会議を閉会します。  
ありがとうございました。